



小川 純文 議員  
(政清会)

**問**

町長は、先の選挙において5つの基本政策の1番目に「農業を核にした新たな可能性を開く産業のまちづくり」を掲げましたが、農業政策が大きく変わろうとする中、町としての考え方を伺う。(1)市場拡大に対応した農業生産振興への取組について。

(2)バイオガスプラントなど循環型農業の推進に向けた取組について。(3)6次産業化や農商工連携による特産品開発への取組について。(4)町と農協などの連携を基礎にした振興・発展への取組状況と一層の推進に向けた方策について。

**町長** (1)雌雄判別精液の使用を含め、後継牛確保対策に重点を置いた新規事業を検討している。種子食用カボチャ「ストライプペポ」は、食品メーカーからの問い合わせもあり、継続して試験栽培を行う。(2)平成27年7月に、十勝総合振興局による勉強会、11月には、ゆとりみらい21推進協議会畜産振興対策専門部会の主催による研修会が

**問** 「農業を核にした新たな可能性を開く産業」への取組について

**答** 農業の一層の振興と農業を核とした産業全体の強化や地域経済の循環を目指す

開催されており、今後は、酪農畜産業の方々に導入の機運が高まるよう、意向調査の実施を検討していく。

(3)これまで、自社生産の豚を用いた「生ハム」、水牛の生乳を活用した「モッツアレラチーズ」、「リーキを使ったスープ」などが商品化されている。今後は、幕別町特産品研究開発事業補助金制度について、特産品の開発段階から販路開拓に至るまでを総合的に支援する制度に拡充する方向で、来年度実施を目指し検討を進めている。(4)農協や観光物産協会との連携については、夏フェスタや産業まつりなどで、地場野菜の直売や幕別産和牛の試食販売などを通じて、幅広くPRしているほか、観光物産協会においては、開成町あじさい祭りやさつぽろオータムフェストなどでの物産展に出展するなど、機動性を生かした効果的な物産振興に取り組んでいる。

今後、ふるさと寄附事業を実施することとしており、各農協や観



幕別産和牛試食販売の様子  
(産業まつり)

光物産協会、商工会とも連携を図りながら「幕別ブランド」の確立を目指し、さらなる物産振興に努めたい。

**再質問** 町内各農協が抱えている現状と課題について、担当者レベルとの情報交換を重ね、農協間連携等も含めた農業振興策の拡充は急務と考えるが、町の考え方と取組を伺う。

**答** 日常的に常勤や担当との意見交換を積極的に進めて行きたい。

**問** 「未来を担う人材の育成」に向けた取組について

**答** 保護者の負担軽減施策やスポーツを通じての人材育成を検討したい

**問**

町長公約のキャッチフレーズ「子どもたちを育ててみたい」と思えるまちづくりには、多くの町民が同じ思いや願いで期待を寄せており、次の点について伺う。(1)小中学校での教材費とPTA会費、少年団や部活動の保護者負担の状況について。(2)「未来を担う人材を育成する」ために今後の取組について。

**教員長**

(1)教材費は年間平均で、小学6年生が5132円、中学3年生が4440円、PTA会費は、小学校が5811円、中学校が580円となっている。

少年団や部活動については、負担額なしから数万円と大きな隔たりがある。

(2)保護者に対して掛かる費用の一部を支援し負担軽減が図られるような効果的な施策について検討しているほか、本町出身の現役オリピックアスリートと子どもたちが触れ合う機会を設けるなど、人材の活用について検討したい。